

## 令和5年度第2回東日本大震災津波伝承館運営協議会の開催結果

日時：令和5年11月20日（月） 13時15分～15時00分  
場所：国営追悼・祈念施設管理棟 セミナールーム

### 1 開 会

齋藤事業課長が開会を宣言した。

### 2 澤田副館長挨拶

委員の皆様におかれましては、本日は御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から当館の運営に御理解、御協力をいただいていることに対し、改めて厚く御礼申し上げます。

当館は、令和元年9月22日の開館以来、間もなく4年2か月が経過しますが、6月13日の前回運営協議会時点で75万2千人余りであった来館者数が、本日現在で89万4千人余りと、この5か月余りで14万2千人余り増加するなど順調に推移しており、今月中には90万人を達成するものと見込んでおります。

また、今年度は、6月に天皇皇后両陛下と三笠宮家の彬子女王殿下に御視察いただいたのに続き、10月に土屋復興大臣とドイツ・ラインラント＝プファルツ州のマル・ドライヤー州首相、今月には復興庁復興推進委員会の今村委員長を始めとする委員の方々に御視察いただくなど、国内外の要人等も多く御来館されました。

今後も日本を代表する震災津波学習拠点として、運営の更なる充実に努め、東日本大震災津波の事実・教訓の伝承と、国内外から寄せられた多くの御支援への感謝の気持ちの発信を図っていきたくと考えております。

本日は今年度2回目の運営協議会ということで、今年度のこれまでの取組状況について、この後御説明させていただきます。委員の皆様には忌憚のない御意見をいただき、今後の運営に活かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 委員紹介

今回から新たに就任した熊谷委員から、一言御挨拶をいただいた。

### 4 議 事

#### (1) 令和5年度の取組状況について

事務局から説明した後、質疑を行った。質疑の内容は、以下のとおり。

#### (工藤委員)

8ページの「45分でわかる！展示解説」は、予約なしでも解説員から解説を聞けるということですが、「通常の時期は行っていないが、この時期にやってみた」ということでしょうか。

#### (事務局)

以前、似たような企画は行ったことがあります。今回の企画は、防災週間に併せて初めて行いました。通常は、御予約いただいた上で展示解説を行っております。

#### (工藤委員)

県立博物館でも、コロナ前は予約なしで展示解説を行っていましたが、コロナで一時取り止め、現在はいつでも解説を行うように戻しました。NYタイムズのお陰もあり、県外の遠くや海外などから様々な方々がいらっしゃるようになりました。解説員がいると様々な質問があり、ポイント解説などでお客様も満足して帰っていただけます。解説員がいるのは大事であり、来館者の方々にとっては、聞きたいことをすぐに確認でき学習が深まります。今後も解説員の力を借りながら、来館者の方々に満足して帰っていただけるようになれば良いと思います。

**(多田委員)**

1点目は、8ページの「震災・防災学習現地研修会」について、県立野外活動センターと一緒に取り組んだ時の参加者の反応や様子を伺います。

2点目は、12ページの「岩手県立図書館との連携」について、「I-ルーム」がオープンしましたが、活用に向けた今後の連携についてどのような意見交換をされたのか伺います。

**(事務局)**

震災・防災学習現地研修会については、県内の教育関係者の方々、小中高の先生方が参加されました。アンケート結果については、伝承館の見学への満足度は100%、パークガイドも100%近い満足度でしたが、県立野外活動センターについては、センター周辺の散策の趣旨がよく分からなかったという意見がありましたので、来年度の研修会に向け内容を検討する予定です。

「I-ルーム」については、内陸において震災、防災等に関する情報提供等をしていただけるということで、当館と親和性が高いことから、これから様々な連携に取り組むべく、1回目の意見交換をさせていただきました。具体的には、県立図書館の図書の配架などを検討したいと考えております。

**(多田委員)**

震災・防災学習現地研修会については、参加した先生方が授業に使えるとイメージしてもらうことがすごく大事で、次年度以降の県内学校の訪問件数にもつながる取組ではないかと思えます。聞くところによりますと、非常に満足されたという先生方が多かったので、良かったと思えます。

「I-ルーム」に関しては、伝承館が素晴らしい施設なので、ここに来ればいいと思う先生方や子どもたちが多くいますが、目的を持って見学するのと当日来て見ただけでは違うと思えます。事前学習のために書籍を使ったりして、何か学んでから伝承館に来ることが非常に効果的ではないかと思えます。

**(金野委員)**

10ページの「多様な来館者の誘致促進」について、外国からの団体予約件数が昨年度は8件、今年度は24件と3倍に増えております。外国語解説研修で解説員の資質向上を目指していることも良いことだと思います。

また、9月下旬の地元紙に、台湾教育旅行招聘事業で来県された方々が伝承館を視察されていたことを取り上げていました。「とても細かく震災の記録を残していることに感動した。台湾の生徒たちを連れて行きたい」という感想の記事を読んだ時に、いかにこの施設が素晴らしいかと思えました。今後も外国からの来館者が増えることが予想されます。

**(南会長)**

東日本大震災の前から、台湾での防災に関して、日本の私のところにも訪ねられたことがありました。日本との交流に防災が位置付けられており、伝承館がその役割を担っていれば素晴らしいことだと思います。

**(中野委員)**

資料1の3～4ページについて、学校の団体予約件数における私立、公立の割合は分かりますでしょうか。また、レポートをしてくる学校が増えているなどの傾向はありますか。

**(事務局)**

私立と公立で区別して集計していないので分かりませんが、県外から来る学校は、私立が多いという感覚があります。

令和4年度までのレポート率では、小学校は約8割、中学校は約6割、高校は約4割の学校が再度来てくださっております。まだ来ていない学校に関しては、こちらから連絡など働き掛けを

行っており、来てくださった学校にはお礼状やアンケートなどを行い、つながるようにしております。コロナ明けで、県内の学校は県外に修学旅行に行っており、今年度は学校関係の団体予約が減っている傾向であります。学校とはつながりを持って来年度も来ていただけるような対応をしていきたいと思っております。

#### (熊谷委員)

今年度の学校の予約件数は258件、昨年度は313件で、かなり減っている。今後、徐々に減っていく見通しとなるのではと危惧している。その反面、学校以外は、今年度は806件、昨年度は769件と伸びており、良い傾向である。団体、大人の方々にも来ていただけるような施設になっていただければ、道の駅にとってもプラスであるが、今後の見通しについて伺いたい。

#### (事務局)

県内の小中学校については、コロナの影響で、元々県外に行っていた修学旅行を一時避難的に県内、特に内陸の学校であれば沿岸の被災地を周る形で行っていましたが、コロナが収まり、元の仙台や東京方面に戻したということのようです。

その対策については、修学旅行については引き止めるのが難しいので、代わりに校外学習という形で、日帰りや県立野外活動センターでの1泊2日の日程などで足を運んでいただけるような働き掛けが必要ではないかと思っております。

今後、各教育事務所を回らせていただき、各学校にどうアピールしたら良いか相談しながら進めていきたいと思っております。校外学習で来ていただく際には、どういう提案が学校サイドにとって効果的なのか、研究していきたいと思っております。

学校以外については、地域の団体が伸びており、消防団の方々や地域の協議会など様々な団体の方々が多い印象があります。伝承館の知名度も上がり、観光ツアーも伸びており、工夫を凝らしながらプロモーションをかけていきたいと考えております。

#### (五味委員)

来館者数に関しては順調に伸びていますが、コロナ明けで今年がピークの年になる可能性もあります。いつかは頭打ちになり、増やしていくのが難しい状況になっていく中で、数から質へのシフトが重要になってくるのではないかと思います。今年度第1回目の運営協議会で越野委員が言われていたように、伝承館に来た方々がどのようなインパクトを受けて持ち帰るのかということが大事なことはないかと思います。

そこで、1点目は、来館者アンケートで目立った記述や気になった記述があれば教えていただきたい。

2点目は、9ページの震災学習教材に関して、小学校の時にも中学校の時にも来る生徒がいるということで、小学生用と中高生用で内容を切り換えているということですが、どのような内容の使い分け、切り換えを行っているのか教えていただきたい。

3点目は、10ページの「SNSを活用した情報発信」について、組織としてどういう戦略でどのような内容をやっていこうと検討しているのか教えていただきたい。

#### (事務局)

資料2の10ページ「(11) 印象に残った展示」については、シアター映像、震災遺物(気仙大橋、消防車など)が1位、2位に来るのは予想どおりだったのですが、当時の証言(消防団、漁業無線局、地元建設業者、自衛隊など)がほぼ同数であり、足を止めて読んでいただいている印象を受けました。この3つが印象に残って持って帰ってもらっているところだと思います。

小学生用の震災津波学習ノートと中高生用の震災津波伝承ノートに関しては、予習にも事後学習にも両方使えるものにしました。団体予約申込みの確認の際には、事前送付について必ず確認しております。子どもたちは、同じことを聞いて同じことを見ても、捉え方が年齢によって異なります。小学生用のノートは、驚きや新しい気付きを感じるようなクイズ形式にしております。中高生用のノートには、クイズ形式はなく、自分の考えを書く、自分の考えをまとめる構成となっております。

SNSの活用については、できるだけ毎日発信するという方針のもと、御覧いただいた方々と気持ちの共有が図れるような投稿を行っております。特に戦略的に行っているわけではありませんが、専門的な内容等については、他の方々が投稿したものをリポスト、引用するようなことも行っております。

#### (五味委員)

調査については、アンケート形式もよいですが、可能であれば、その一人ひとりがどのように感じたのか、インタビュー形式で調査をしていくことも効果的ではないかと思えます。どういう感想を持ったのか、どういうことを考えたのか、大学で一緒に研究させていただければ、より見えてくるものがあるのではないかと思います。

小学生には関心を持ってもらい、中学生には考えてもらう方針のもとにノートが作られていることが分かりました。その後、岩手大学に入学する学生も少なからずいるので、大学に入ったときに、その学生がどのようなことを記憶しているかということなども、非常に重要な知見になりそうだと考えており、同様に研究など御相談させていただければと思っております。

SNSに関しては、どのような目的でやっているのかが曖昧になってくることがあります。担当者に任せるだけではなく、どのような方針でやっていくかを戦略的に考えると良いと思えます。

もう1点、この協議会で委員から出てきた意見に対してどのような検討がされたのか、以降の会議の時にフィードバックしていただけると、我々としてもどのような発言をすべきなのか考えることとなりますので、御検討いただければと思えます。

#### (越野委員)

震災から13年経ち、当時の幼稚園児や小学1年生が大学1年生、2年生になり、あの時何が起きたのかは、伝承館に来れば大体分かる。「いきる」「そなえる」というのはここで十分学べるが、「かかわる」というのは伝承館で学べるかと言ったら、足りないのではないかと思います。

各被災地においてハード面の復興はほぼ完了したが、コミュニティの構築や心の復興はまだまだです。今、私たちにできることは何か、伝承館でも「かかわる」という観点でできることは何かを考え、伝承館を訪れた方々に「かかわる」ことをつかみ取って帰ってもらえるようにしたら良いと思えます。

子どもから大人まで皆が、まちづくりに関わっていかねばならないと思わせるようなことをした方が良いのではないのでしょうか。コミュニティの構築なくして防災教育はありえないと思っており、一番の課題はコミュニティの構築だと思います。

#### (事務局)

コミュニティ関係については、ゾーン3の一番最後、「津波てんでんこ」など今後の取組を考えるエリアがあります。災害を自分事として捉えるためには、自分や周り、地域のことを考えていくことが必要だと伝える展示コーナーがあり、そこでコミュニティの大切さについても解説員が解説するようにしております。

この部分は非常に重要なエリアであり、解説員はできるだけ時間をかけて説明するようにしておりますが、まだ課題があると思っております。説明の仕方を工夫したり、年4回の企画展示の中で補完したりするなど、より良い展示解説ができるように考えていきたいと思えます。

#### (越野委員)

ハードの復興はできたが、ソフト面での復興がまだまだであるという認識を持ち、何が問題か、その問題解決のために今どのように取り組んでいるかという部分を、もっと強調した方が良いのではないのでしょうか。各地で講演してもよく聞かれ、ハードは殆どできていますと答えますが、心の復興やコミュニティなどのソフト面での復興については、はっきりと答えられる人がおりません。

#### (柴山委員)

平均来館者数が昨年度から1.5倍、約300人増えているのは大変良いことだと思います。ただし、

団体予約で来館していない県がいくつか存在し、令和4年度と令和5年度ともに来館していないのが、鳥取、島根、香川、佐賀の4県です。来ていない県への対策をしなければいけないのではないかと思います。

アンケートを見ますと、県外の方々から交通の便が良くないという指摘が7件出ております。陸前高田駅まで行くBRTは多いですが、奇跡の一本松駅に来る本数は少ないです。県外の方は、BRTがどこを通っているのか分からないので、ホームページなどで周知し、時刻表ですぐ確認できるようにになって欲しいと思います。

ホームページ上の団体予約の受付のところで、パークガイドに触れておりませんが、外の公園内を見るときにはパークガイドの解説もあるということを知っておくと、連携がスムーズになると思います。

閑散期の12月～2月に解説案内を詳しくやるなど、閑散期だからできること、来館者の満足度を上げる方向に進んでみてはどうでしょうか。寒い期間は、パークガイドの費用を安くするなどしてみると、この冬に来てみようと思う人も増えるかもしれません。

閉館時のエントランスを活用した方が良いと思います。ジオパークや陸前高田市の展示はありますが、伝承館の展示が少ないので、簡単な説明やポスターなど4枚ほど展示すると、夜間に24時間開放のトイレを利用しに来た方が、次回来てみようと思うかもしれません。

来年度は、熊本で「ぼうさいこくたい」が開催されます。九州の団体も伝承館に全然来ていないので、ぜひブースを設けてPRして欲しいと思います。3.11伝承ロード推進機構に頼ることなく、伝承館でブースを設けてやって欲しいです。

来年度は、スマトラ沖地震から20年経ちます。昨日はアチェの皆さんが来ましたが、来年はインドネシアのイベントで交流し、また日本に来てもらうなど、台湾だけではなくインドネシアからも来ていただくことも必要だと思います。

来館者数がピークを迎えて減っていくかもしれないという話がありましたが、増えていく可能性は少しあると思っています。オーバーツーリズムの問題があり、京都で泊まることができなくなると、京都の代わりを探すことが増えてきます。その時に岩手や伝承館をうまくプロモートできれば、京都への修学旅行の代わりになるかもしれず、チャンスはまだあると思っています。京都は歴史を学ぶ所、伝承館は震災を学ぶ所で大きく違いますが、世界遺産や平泉などもありますし、オーバーツーリズムの問題の見方を変えれば、今は誘致するタイミングかもしれないので、うまく誘致活動を進めていただければと思います。

#### (事務局)

団体予約件数では、0件の県がいくつかありますが、来館者アンケートやメッセージボードへの記載を見ますと、全国から満遍なく来ていただいております。団体予約の件数が昨年と比べて少なくなった一方、来館者数が昨年よりも伸びている要因の一つは、個人旅行で来られた方が増えていることであると感じております。それでも来館者が多い県、少ない県はあると思いますので、様々なところから来ていただけるよう取り組んでいきたいと思っています。

交通アクセスとパークガイドの件は改善していきたいと思っています。資料3「学校向けの利用案内」では、パートガイドとの連携を強く意識しており、1ページ目にパークガイドの紹介を入れましたが、ホームページには記載がないので検討していきたいと思っています。

閑散期の取組については、冬場に来館者を増やすのは難しいと思いますので、いかに満足していただけるか考えていきたいと思っています。

エントランスの夜間の活用についても考えていきたいと思っています。

熊本のミュージアムとは、パンフレットの相互配架で交流を始めたところであり、現地に行っ て展示内容を見たり、現地スタッフの方々とも情報交換や意見交換をしたりしていきたいと思 います。

長野の中学校が修学旅行で来館した際に、旅行会社の添乗員に伺ったところ、長野から京都への修学旅行は多いが、お寺などを見学するにしてもオーバーツーリズムのため単独では見ることができず、他の団体と一緒になければならぬなど、様々な制約が多かったそうです。そのため、できればもっと東北に方向を変えたいという話をされていました。今後、関係機関と連携しながら、教育旅行の誘致に取り組んでいきたいと思っています。

#### (熊谷委員)

現在、陸前高田市が補助金を出して観光物産協会が行っている「たかた旅トク」という事業があり、宿泊した方々は4,000円割引となり、商品を買える2,000円のクーポンももらえます。道の駅でもクーポン利用者が増えておりますが、これで終わりではなく、陸前高田市の冬の観光をどうするかが大きな課題になります。オブザーバーで市の観光交流課長が来ておりますが、冬の陸前高田の良さを知ってもらい良い機会になると思うので、このような取組を継続して欲しいと思います。道の駅に来ていただければ、伝承館にも足を運んでもらえますし、充実した解説ということになるとリピーターが増えていくことになると思います。

#### (五味委員)

この会議の中でも、解説員の方々やパークガイドさんの話が非常に多く出てきて、その方々の活躍や頑張りによって支えられているところが大きいと思います。この運営協議会に解説員の方々やパークガイドさんに在席していただくなり委員に入っていただき、どういう意見が出ているのかが伝わるようにしても良いのではないかと思いますので検討していただきたいです。

#### (事務局)

解説員については、館内対応がありますので、協議会への出席は今後の検討課題と思います。協議会の資料や議事録は回覧し、解説員にも目を通してもらうようにしており、引き続き考えていきたいと思っております。

#### (南会長)

伝承館や祈念公園は立派な施設であり、全国や世界からも訪ねて来ていただけるものになっておりますが、解説員の方々やその周りの方々、運営している皆さん、この協議会で話されていることの全てが伝承館の魂だと思います。訪ねて来られた方々との対話、コミュニケーションが魂だと思います。震災や復興があり、言葉を尽くして解説していただく訳ですが、伝承にかける思いやつなぐべき心など、私たちが伝えようとするのが、相手の心に伝わるのだと思います。その魂を大事にしたいですし、そのことをいつも掲げておきたいと思っております。

大事にしたいことを掲げないと、皆さんの向かう方向が一致しないことがあると思っております。皆さんがこうして集まり、協議会の内容も充実し、何が大事かある程度方向が見えております。それがこの資料になっているように思います。これまでの成果として高く評価しなければならないですし、作ってきた方向性をもっと大事にしていけばきっと伝わります。まだまだ伝えなければならない人がいると思っておりますし、伝わっていくと思っております。広がっていくと思っております。

小学校と中学校、高校で、少し伝え方を変えている話がありましたが、これは本当に大事なことだと思います。子どもたちに学ぶ場であるということがより伝わると、レポートにもつながっていきます。学年ごとに学ぶことがあるということになると、子どもたちの学ぶ場だったり、教員たちの学ぶ場だったり、研修の場にもなります。伝承館が繰り返し学んでもらえる場になってくれたら良いと思っておりました。学校教育の場としての伝承館の位置付けは、一つの大きな目玉でもあったと思っております。もっと丁寧に今のお話をもとに育てていくと、繰り返し子どもたちが来て、学んでもらえることになってきそうだと心強く思いました。促進して欲しいと思っております。校外学習に展開していくことなども育てて欲しいと思っておりました。

越野委員から、「かかわる」場としてとても大事な御指摘をいただきました。伝承館には、3.11からの復興が今まだ継続していることを伝える役割があるのではないかと思います。3.11からの復興がそれぞれの人の中で続いていることを大切に扱いながら、復興状況を伝えていくことに軸足を置かないといけません。新想定では、被害想定7,000人が亡くなると出て、何とかしなければという話になりますが、3.11からのそれぞれの心の復興に軸足があつてこそ、次への備えがあることに改めて気付かせていただきました。

発災から伝承まで12年半の営みが学べる伝承館であって欲しいと思っております。津波伝承の文化がこの場で育っていることを皆さんで確認しながら、進めていけたら良いと思っております。

以上、一言申し上げさせていただきました。

#### 4 議 事

##### (2) その他

(南会長)

「議事(2) その他」について、委員の方々から御発言等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議事は以上ということになります。御協力、誠にありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

(澤田副館長)

南会長を始め、委員の皆様におかれましては、御多忙のところ御出席いただき、貴重な御意見を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。

本日いただいた御意見等を踏まえ、今後の当館の運営をより良いものにしていきたいと考えております。次回の運営協議会までの間に、更に御意見等を頂戴することがあるかもしれませんが、その際はぜひ御協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

次回の運営協議会でございますが、来年の5月頃に開催したいと考えておりますので、その際はどうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

#### 5 閉 会

齋藤事業課長が閉会を宣言した。